

要望書

石破茂 自由民主党総裁

杉田水脈元議員の参議院選候補公認の撤回を求めます

与党である自由民主党は、3月9日、杉田水脈元衆議院議員を今夏の参議院選の比例区公認候補とすることを発表しました。

私たちは、杉田元議員がさまざまな人権侵害を繰り返しておきながら、その罪を真摯に認めず、被害者への謝罪も行なわないうえに、いまだに虚偽の発言を繰り返していることを問題とし、自民党が公認候補として再び国会議員になる道を開くことに強く抗議し、党公認をただちに撤回するよう求めます。

杉田元議員は、2014年の衆院本会議で「男女平等は絶対に実現し得ない、反道徳の妄想」と、女性差別撤廃条約の破棄や男女共同参画基本法の撤廃を求めました。2020年には、「女性はいくらでも嘘をつけますから」と、性暴力被害に苦しむ女性を侮辱し、沈黙を強いる発言を行っています。2016年に国連女性差別撤廃委員会開催地で活動していた在日コリアン女性、アイヌ女性らに対して自身のブログやフェイスブックで悪辣な差別を行ったことも明らかになり、相次ぐ差別発言が問題となって、2022年に総務政務官を辞任しています。

2023年には、在日コリアンやアイヌの被害女性による人権救済申し立てに対し、札幌、大阪の両法務局は「人権侵犯の事実があった」と認定しました。それにも関わらず、杉田元議員は今回の党公認決定後、「人権侵犯の認定は受けていない」と虚偽発言を行っています。

このように、杉田元議員は一向に女性の人権を理解せず、差別を扇動して人権侵害を繰り返しており、国会議員としてふさわしい人物だとは、どうもいえません。

「慰安婦」問題に対しても、杉田元議員は2013年に日本維新の会議員として米グレンデール市で「平和の少女像」の撤去を求め、帰国後の国会で、各国で市民が建てている「慰安婦」像や碑の撤去を訴えました。これを皮切りに、その後も安倍元首相らとともに右派政治家として歴史を否定・わい曲し、『慰安婦』問題は捏造などと主張して攻撃の最前線に立ち、犬笛を吹き続けています。2023年には、「慰安婦」問題を含む女性の問題や運動を研究する大学教員らを「国益に反する研究」「反日活動」と攻撃し、名誉棄損による損害賠償を命じる大阪高裁判決を受けています。

こうした経緯からも、今回の自民党公認候補決定は、女性の立場から「慰安婦」、夫婦別姓など女性の人権を否定し、右派の主張を支えてきた杉田元議員に対する期待の表れではないかと考えざるを得ません。

杉田元議員による差別・ヘイト発言は性被害者や社会のマイノリティに対する二次加害であり、多くの人々を傷つけ、苦しめてきたことは周知の事実です。石破総裁自身も、2018年に杉田元議員の差別発言について「全く正しいことだと思わないし、自民党は多様な意見があるからいいと思わない。これでどれほど傷ついた人がいるだろうか」と発言しています。

また、2024年の日本のジェンダーギャップ指数は、146カ国中118位であり、相変わらず女性の人権後進国状態が続いています。それを裏付けるように、昨年10月に国連女性差別撤廃委員会から日本政府に対して、多岐にわたる多数の懸念や勧告が出されています。日本政府は一貫して「従う義務はない」と背を向けてきた結果、旧ジャニーズ問題をはじめ性暴力問題において、自浄能力や統制力もないまま漫然と被害が繰り返されています。

石破総裁は日本政府の総理大臣でもあり、女性の人権を護る社会を創る責務があります。そのためにも、まず、人権侵害を続けても省みることがないような人物を、自分の党が公認候補として、再び国会議員にすべきではありません。

石破総裁

杉田元議員の党公認は、政治責任を放棄する暴挙です。

杉田元議員の参議院選候補公認を直ちに撤回されるよう強く求めます。

2025年4月9日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

<https://www.ianfu-kansai-net.org/>

email:info@ianfu-kansai-net.org